

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／株式	
信託期間	2015年12月28日から2025年12月15日までです。	
運用方針	日本連続増配成長株マザーファンド（以下、「マザーファンド」といいます。）の受益証券への投資を通じて、日本の連続増配銘柄（一定期間にわたり1株当たりの普通配当金が毎期増加している企業の株式をいいます。）に投資を行います。	
主要投資対象	当ファンド	マザーファンドの受益証券を主要投資対象とします。
	日本連続増配成長株マザーファンド	日本の金融商品取引所上場株式を主要投資対象とします。
投資制限	当ファンド	マザーファンドの受益証券への投資割合には、制限を設けません。 株式への実質投資割合には制限を設けません。 外貨建資産への投資は行いません。
	日本連続増配成長株マザーファンド	株式への投資割合には制限を設けません。 外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	年4回、3月、6月、9月および12月の各月の15日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、原則として、以下の方針に基づき、収益分配を行います。 分配対象収益の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。繰越分を含めた経費控除後の配当等収益には、マザーファンドの配当等収益のうち、投資信託財産に帰属すべき配当等収益を含むものとします。 分配金額は、委託会社が分配可能額、基準価額水準等を勘案して決定します。分配可能額が少額の場合や基準価額水準によっては、収益分配を行わないことがあります。	

運用報告書（全体版）

日本連続増配成長株オープン

第9期（決算日 2018年3月15日）

第10期（決算日 2018年6月15日）

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。

皆様の「日本連続増配成長株オープン」は、2018年6月15日に第10期決算を迎えましたので、過去6ヵ月間（第9期～第10期）の運用状況ならびに決算のご報告を申し上げます。

今後とも、一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



〒104-0031 東京都中央区京橋2-2-1

お問い合わせは弊社クライアント・サービス部へ
フリーダイヤル ☎ 0120-048-214（営業日の9:00～17:00）

【ホームページ】

<http://www.okasan-am.jp>

※アクセスにかかる通信料はお客様のご負担となります。
※機種により本サービスをご利用いただけない場合があります。



○設定以来の運用実績

決算期	基準価額 (分配落)	基準価額		東証株価指数 (TOPIX) (参考指数)		株式組入比率	株式先物比率	純資産額
		税金配分	騰落率	騰落率	騰落率			
(設定日) 2015年12月28日	円 10,000	円 —	% —	ポイント 1,516.19	% —	% —	% —	百万円 3,442
1期(2016年3月15日)	9,627	0	△ 3.7	1,372.08	△ 9.5	92.6	—	6,410
2期(2016年6月15日)	9,214	0	△ 4.3	1,277.11	△ 6.9	91.8	—	13,219
3期(2016年9月15日)	8,971	0	△ 2.6	1,301.11	1.9	92.1	—	12,753
4期(2016年12月15日)	9,962	0	11.0	1,542.72	18.6	93.8	—	12,577
5期(2017年3月15日)	10,003	280	3.2	1,571.31	1.9	93.1	—	10,348
6期(2017年6月15日)	10,008	510	5.1	1,588.09	1.1	92.9	—	8,394
7期(2017年9月15日)	10,009	240	2.4	1,638.94	3.2	92.4	—	7,727
8期(2017年12月15日)	10,002	990	9.8	1,793.47	9.4	91.9	—	7,798
9期(2018年3月15日)	9,935	0	△ 0.7	1,743.60	△ 2.8	91.4	—	10,068
10期(2018年6月15日)	10,003	570	6.4	1,789.04	2.6	92.7	—	10,018

(注) 基準価額および分配金(税引前)は1万円当たり、基準価額の騰落率は分配金(税引前)込み。

(注) 設定日の基準価額および純資産総額は当初設定元本。

(注) 東証株価指数(TOPIX)は当ファンドの参考指数であり、ベンチマークではありません。設定日の東証株価指数(TOPIX)は設定日前営業日の終値です。

(注) 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、株式組入比率および株式先物比率は実質比率を記載しております。

(注) 株式先物比率=買建比率-売建比率。

○当作成期中の基準価額と市況等の推移

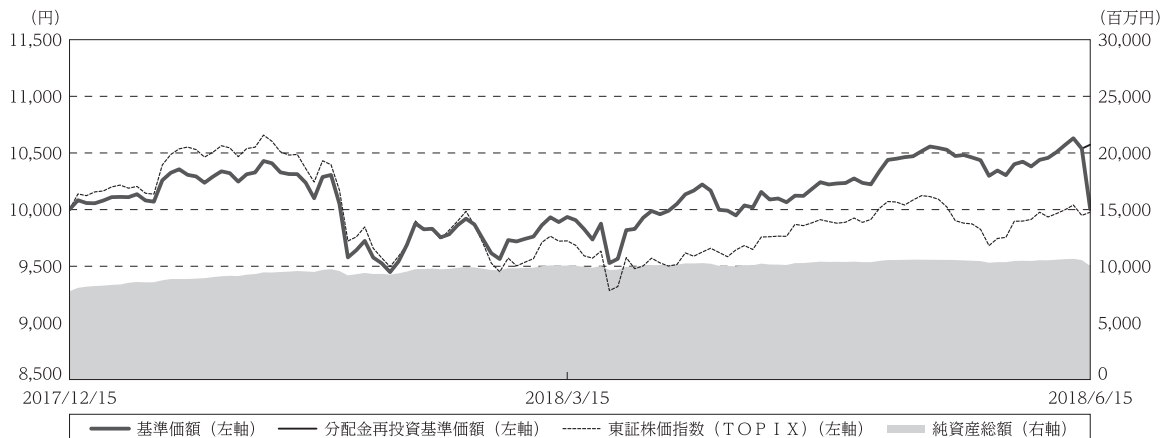
決算期	年月日	基準価額		東証株価指数 (TOPIX) (参考指数)		株式組入比率	株式先物比率
		騰落率	騰落率	騰落率	騰落率		
第9期	(期首) 2017年12月15日	円 10,002	% —	ポイント 1,793.47	% —	% 91.9	% —
	12月末	10,070	0.7	1,817.56	1.3	91.5	—
	2018年1月末	10,100	1.0	1,836.71	2.4	91.3	—
	2月末	9,869	△1.3	1,768.24	△1.4	89.8	—
	(期末) 2018年3月15日	9,935	△0.7	1,743.60	△2.8	91.4	—
第10期	(期首) 2018年3月15日	9,935	—	1,743.60	—	91.4	—
	3月末	9,988	0.5	1,716.30	△1.6	91.6	—
	4月末	10,242	3.1	1,777.23	1.9	91.9	—
	5月末	10,345	4.1	1,747.45	0.2	92.7	—
	(期末) 2018年6月15日	10,573	6.4	1,789.04	2.6	92.7	—

(注) 期末基準価額は1万円当たり分配金(税引前)込み、騰落率は期首比。

運用経過

作成期間中の基準価額等の推移

(2017年12月16日～2018年6月15日)



第9期首：10,002円

第10期末：10,003円 (既払分配金(税引前)：570円)

騰落率：5.7% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 参考指数は、東証株価指数(TOPIX)です。
- (注) 分配金再投資基準価額および参考指数は、作成期首(2017年12月15日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドの主要投資対象である「日本連続増配成長株マザーファンド(以下、マザーファンドといいます。)」における主なプラス要因およびマイナス要因は以下の通りです。

(主なプラス要因)

- ・業種配分では、化学、小売業、繊維製品などが基準価額にプラスに寄与しました。
- ・個別銘柄では、タカラバイオ、小林製薬、ゴールドウインなどが基準価額にプラスに寄与しました。

(主なマイナス要因)

- ・業種配分では、機械、建設業、不動産業などが基準価額にマイナスに影響しました。
- ・個別銘柄では、栗田工業、伊藤忠テクノソリューションズ、セリアなどが基準価額にマイナスに影響しました。

投資環境

(2017年12月16日～2018年6月15日)

国内株式市場は、作成期首から2018年1月下旬にかけては、世界的な景気回復に対する期待が高まったことや良好な企業業績が好感されたことなどから上昇しました。しかしその後は、日米における政権運営や米中貿易摩擦に対する懸念に加え、円高ドル安の進行による企業業績の先行き悪化リスクが意識されたことなどから下落しました。3月下旬から作成期末にかけては、北朝鮮情勢などを巡る地政学的リスクや米中貿易摩擦に対する懸念が後退したことに加え、発表が本格化した2018年3月期の企業決算で堅調な業績の推移が確認されたことなどから上昇しました。

当ファンドのポートフォリオ

(2017年12月16日～2018年6月15日)

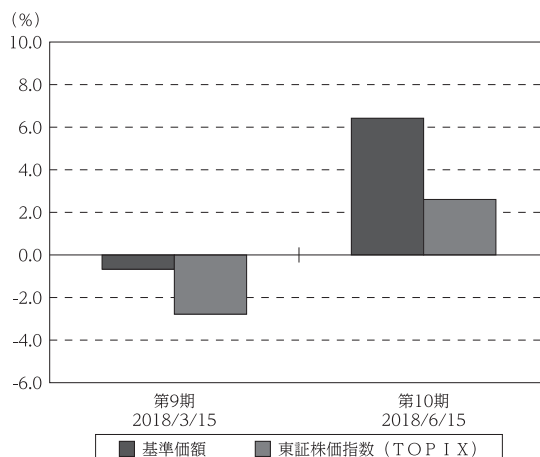
当ファンドの運用はマザーファンドを通じて行いました。マザーファンドの運用につきましては、連続増配期間の長さ、時価総額、信用リスク、流動性等を考慮してユニバースを構築し、その中から、成長性或連続増配の持続可能性等を勘案しポートフォリオを構築しました。当作成期は、M&A意欲の高まりによる恩恵が期待される日本M&Aセンター、企業の販売促進費や広告宣伝費増加の恩恵が期待されるカクコムや電通などを新規に組み入れました。一方で、株価が大きく上昇し割安感が乏しいと判断したシーズ・ホールディングスを売却したほか、前期の配当が横ばいとなり連続増配が途切れたユニ・ファミリーマートホールディングスや2018年3月期決算の発表で減配予想を発表したコーエーテクモホールディングスなどを売却しました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2017年12月16日～2018年6月15日)

当ファンドは特定のベンチマークを設けておりませんが、分配金も考慮した基準価額の騰落率は、参考指数としている東証株価指数（TOPIX）の騰落率を6.0%上回りました。詳細につきましては前掲の「基準価額の主な変動要因」をご参照ください。

基準価額と参考指数の対比（期別騰落率）



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税引前）込みです。

(注) 参考指数は、東証株価指数（TOPIX）です。

分配金

(2017年12月16日～2018年6月15日)

当ファンドは年4回、3月、6月、9月および12月の各月の15日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象収益とします。分配金額は、分配可能額、基準価額水準等を勘案して決定します。

当作成期中につきましては、第9期の決算時は、見送りとさせていただきます。第10期の決算時は、1万口当たり570円（税引前）の分配を行いました。なお、収益分配に充てなかった留保益につきましては、運用の基本方針と同一の運用を行ってまいります。

(単位：円、1万口当たり・税引前)

項 目	第9期	第10期
	2017年12月16日～ 2018年3月15日	2018年3月16日～ 2018年6月15日
当期分配金	—	570
(対基準価額比率)	—%	5.391%
当期の収益	—	530
当期の収益以外	—	39
翌期繰越分配対象額	284	246

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

国内株式市場は、緩やかに上昇する展開を予想します。世界的な景気拡大や日本企業の業績拡大への期待などが株価を押し上げる材料になると考えます。ただ、米中貿易摩擦など国際情勢の不透明感から、短期的には株価が調整する可能性もあると考えます。

当ファンドの運用は、マザーファンドを通じて行ってまいります。マザーファンドの運用につきましては、連続増配期間の長さ、時価総額、信用リスク、流動性等を考慮してユニバースを構築し、その中から、成長性や連続増配の持続可能性等を勘案しポートフォリオを構築します。個別銘柄につきましては、株式市場での高い業績期待を下回り株価が大きく調整する銘柄が散見されることから、株価に割高感がある銘柄は適宜、利益確定売りを進め、業績成長ペースの加速が期待できる銘柄の組入比率を高める方針です。また、決算などで配当金の据え置きや減額を発表した銘柄につきましては速やかに売却する方針です。

※文中の投資行動は、個別銘柄の売買等いかなる投資行動も推奨するものではありません。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2017年12月16日～2018年6月15日)

項 目	第9期～第10期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 78	% 0.775	(a) 信託報酬＝作成期間中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(38)	(0.377)	委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(38)	(0.377)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の 情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(2)	(0.022)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	7	0.070	(b) 売買委託手数料＝作成期間中の売買委託手数料÷作成期間中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株 式)	(7)	(0.070)	
(c) そ の 他 費 用	1	0.006	(c) その他費用＝作成期間中のその他費用÷作成期間中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(1)	(0.005)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(0)	(0.000)	その他は、金銭信託支払手数料
合 計	86	0.851	
作成期間中の平均基準価額は、10,102円です。			

(注) 作成期間中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2017年12月16日～2018年6月15日)

○売買及び取引の状況とは、ファンドが購入・売却した有価証券の数量および金額です。

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄	第9期～第10期			
	設定		解約	
	口数	金額	口数	金額
日本連続増配成長株マザーファンド	千口 1,762,998	千円 2,230,000	千口 472,476	千円 630,000

(注) 単位未満は切捨て。

○株式売買比率

(2017年12月16日～2018年6月15日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項目	第9期～第10期	
	日本連続増配成長株マザーファンド	
(a) 当作成期中の株式売買金額	6,518,607千円	
(b) 当作成期中の平均組入株式時価総額	8,977,820千円	
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.72	

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均です。

○利害関係人との取引状況等

(2017年12月16日～2018年6月15日)

利害関係人との取引状況

<日本連続増配成長株オープン>

該当事項はございません。

<日本連続増配成長株マザーファンド>

区分	第9期～第10期					
	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
株式	百万円 4,035	百万円 1,496	% 37.1	百万円 2,483	百万円 1,228	% 49.5

平均保有割合 100.0%

※平均保有割合とは、マザーファンドの残存口数の合計に対する当該ベビーファンドのマザーファンド所有口数の割合。

日本連続増配成長株オープン

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	第9期～第10期
売買委託手数料総額 (A)	6,867千円
うち利害関係人への支払額 (B)	2,608千円
(B) / (A)	38.0%

(注) 売買委託手数料総額は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものです。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは岡三証券です。

○組入資産の明細

(2018年6月15日現在)

親投資信託残高

銘 柄	第8期末	第10期末	
	口 数	口 数	評 価 額
	千口	千口	千円
日本連続増配成長株マザーファンド	5,946,115	7,236,637	9,688,410

(注) 口数・評価額の単位未満は切捨て。

○投資信託財産の構成

(2018年6月15日現在)

項 目	第10期末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
日本連続増配成長株マザーファンド	9,688,410	90.3
コール・ローン等、その他	1,043,350	9.7
投資信託財産総額	10,731,760	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況

項 目	第9期末	第10期末
	2018年3月15日現在	2018年6月15日現在
	円	円
(A) 資産	10,142,098,168	10,731,760,894
コール・ローン等	561,562,568	843,350,836
日本連続増配成長株マザーファンド(評価額)	9,580,535,600	9,688,410,058
未収入金	—	200,000,000
(B) 負債	74,019,559	713,272,532
未払収益分配金	—	570,903,402
未払解約金	38,419,953	101,772,498
未払信託報酬	35,351,533	40,313,026
未払利息	1,072	1,694
その他未払費用	247,001	281,912
(C) 純資産総額(A-B)	10,068,078,609	10,018,488,362
元本	10,134,261,455	10,015,849,171
次期繰越損益金	△ 66,182,846	2,639,191
(D) 受益権総口数	10,134,261,455口	10,015,849,171口
1万口当たり基準価額(C/D)	9,935円	10,003円

(注) 純資産総額が元本総額を下回っており、その差額は第9期66,182,846円です。

(注) 計算期間末における1口当たりの純資産額は、第9期0.9935円、第10期1.0003円です。

(注) 当ファンドの第9期首元本額は7,796,505,913円、第9～10期中追加設定元本額は4,195,642,426円、第9～10期中一部解約元本額は1,976,299,168円です。

○損益の状況

項 目	第9期	第10期
	2017年12月16日～ 2018年3月15日	2018年3月16日～ 2018年6月15日
	円	円
(A) 配当等収益	△ 57,050	△ 72,864
受取利息	—	750
支払利息	△ 57,050	△ 73,614
(B) 有価証券売買損益	△ 50,770,570	649,369,203
売買益	9,042,050	689,788,799
売買損	△ 59,812,620	△ 40,419,596
(C) 信託報酬等	△ 35,609,673	△ 40,603,604
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 86,437,293	608,692,735
(E) 前期繰越損益金	126,760,979	35,861,906
(F) 追加信託差損益金	△106,506,532	△ 71,012,048
(配当等相当額)	(159,709,578)	(172,469,370)
(売買損益相当額)	(△266,216,110)	(△243,481,418)
(G) 計(D+E+F)	△ 66,182,846	573,542,593
(H) 収益分配金	0	△570,903,402
次期繰越損益金(G+H)	△ 66,182,846	2,639,191
追加信託差損益金	△106,506,532	△ 71,012,048
(配当等相当額)	(161,819,100)	(173,224,060)
(売買損益相当額)	(△268,325,632)	(△244,236,108)
分配準備積立金	126,760,979	73,651,239
繰越損益金	△ 86,437,293	—

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定した価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 収益分配金

決算期	第9期	第10期
(a) 配当等収益(費用控除後)	0円	44,977,205円
(b) 有価証券等損益額(費用控除後、繰越欠損金補填後)	0円	486,842,449円
(c) 信託約款に規定する収益調整金	161,819,100円	173,224,060円
(d) 信託約款に規定する分配準備積立金	126,760,979円	112,734,987円
分配対象収益(a+b+c+d)	288,580,079円	817,778,701円
分配対象収益(1万口当たり)	284円	816円
分配金額	0円	570,903,402円
分配金額(1万口当たり)	0円	570円

用語解説

○資産、負債、元本及び基準価額の状況は、期末における資産、負債、元本及び基準価額の計算過程を表しています。主な項目の説明は次の通りです。

項目	説明
資産	ファンドが保有する財産の合計です。
コール・ローン等	金融機関向けの安全性の高い短期貸付運用などの残高です。
各種有価証券等(評価額)	組入れた株式・債券・ファンドなどの評価金額です。
未収入金	入金が予定されている有価証券の売却代金などです。
未収配当金	入金が予定されている株式の配当金等です。
未収利息	入金が予定されているコール・ローン等の利息や債券の利息の合計です。
負債	支払いが予定されている金額の合計です。
未払収益分配金	期末時点で支払いが予定されている収益分配金です。
未払解約金	支払いが予定されている解約金です。
未払信託報酬	支払いが予定されている信託報酬の額です。
その他未払費用	支払いが予定されている監査費用、その他の費用です。
純資産総額(資産－負債)	ファンドが保有する財産の合計から支払いが予定されている金額の合計を差し引いたものです。
元本	ファンド全体の元本残高です。
次期繰越損益金	純資産総額と元本の差額(翌期に繰り越す損益金の合計額)です。
受益権総口数	受益者が保有する受益権口数の合計です。
1(万)口当たり基準価額	1(万)口当たりのファンドの時価です。

用語解説

○損益の状況は、期中にファンドがどのような収益や損失を計上したかを表しています。主な項目の説明は次の通りです。

項目	説明
配当等収益	ファンドが受取った配当金・利息等の合計です。
受取配当金	保有する株式等の配当金等です。
受取利息	債券、コール・ローン等の利息等です。
有価証券売買損益	有価証券の売買損益と期末の評価損益の合計額です。
売買益	売買益と期末評価益の合計です。
売買損	売買損と期末評価損の合計です。
信託報酬等	信託報酬のほか保管費用、監査費用、その他の費用と、それに掛かる消費税等相当額です。
当期損益金	当期における収支合計です。
前期繰越損益金	前期分の分配準備積立金と繰越損益金の合計額から当期中の解約に対する持分を控除した金額です。
追加信託差損益金	受益者がファンドに払い込んだ金額と元本との差額です。
(配当等相当額)	配当等に相当する額です。
(売買損益相当額)	売買損益に相当する額です。
計	収益分配前の期中の収支の総合計です。
収益分配金	期中の分配可能額から受益者に支払われる分配金です。
次期繰越損益金	翌期に繰り越す損益金の合計です。
追加信託差損益金	翌期に繰り越す追加信託差損益金です。
(配当等相当額)	配当等に相当する額です。
(売買損益相当額)	売買損益に相当する額です。
分配準備積立金	翌期に繰り越す分配準備積立金の額です。
繰越損益金	翌期に繰り越す損益金の額です。

○分配金のお知らせ

	第9期	第10期
1万口当たり分配金（税引前）	0円	570円
支払開始日	各決算日から起算して5営業日までの間に支払いを開始します。	
お支払場所	取得申込みを取扱った販売会社の本店	

〈お知らせ〉

該当事項はございません。

○（参考情報）親投資信託の組入資産の明細

（2018年6月15日現在）

＜日本連続増配成長株マザーファンド＞

下記は、日本連続増配成長株マザーファンド全体(7,239,956千口)の内容です。

国内株式

銘柄	第8期末		第10期末	
	株数	千株	株数	千株
建設業 (3.2%)				
ショーボンドホールディングス	26.4	34	259,760	
積水ハウス	20	20	38,550	
食料品 (1.3%)				
アサヒグループホールディングス	38.8	20.9	119,171	
日本たばこ産業	21.9	—	—	
繊維製品 (1.6%)				
ゴールドウイン	—	15.2	146,832	
化学 (11.6%)				
日油	12.5	31.7	109,523	
花王	35	31.5	272,380	
大日本塗料	13.6	—	—	
日本ペイントホールディングス	10.3	—	—	
シーズ・ホールディングス	20.6	—	—	
ポーラ・オルビスホールディングス	15.5	9.2	48,024	
小林製薬	29.1	20.8	206,960	
タカラバイオ	50.7	95.4	234,493	
ユニ・チャーム	45.8	59.7	206,681	
医薬品 (2.7%)				
科研製薬	10.4	—	—	
ロート製薬	90	71.2	252,048	
ゴム製品 (1.0%)				
ブリヂストン	8.1	21.3	94,231	
ガラス・土石製品 (0.8%)				
ニチアス	51	51	73,287	
金属製品 (1.7%)				
リンナイ	12.4	12.4	127,472	
バイオラックス	—	11.3	30,769	
機械 (7.0%)				
三井海洋開発	13.6	53.3	154,729	
サトーホールディングス	—	23.6	75,874	
栗田工業	42.7	60.9	186,354	

銘柄	第8期末		第10期末	
	株数	千株	株数	千株
福島工業	7.4	7.4	37,444	
竹内製作所	30.5	64.5	153,832	
グローリー	13.3	13.3	42,693	
スター精密	44.6	—	—	
電気機器 (3.4%)				
エレコム	14.4	—	—	
富士通ゼネラル	34.5	—	—	
シスメックス	22.8	30.6	317,934	
輸送用機器 (4.9%)				
日産自動車	—	166.7	181,869	
スズキ	44.8	42.3	271,904	
精密機器 (2.9%)				
テルモ	27.6	39.5	265,440	
陸運業 (3.3%)				
西日本旅客鉄道	10.7	10.7	87,761	
東海旅客鉄道	2.4	6.9	165,738	
ハマキョウレックス	15	15	53,625	
倉庫・運輸関連業 (0.8%)				
トランコム	—	5.1	42,534	
上組	14.3	14.3	35,249	
情報・通信業 (10.6%)				
NECネットエスアイ	32.1	32.1	80,956	
コーエーテクモホールディングス	36.4	—	—	
GMOペイメントゲートウェイ	12.7	16.8	199,080	
伊藤忠テクノソリューションズ	35.1	70.7	142,319	
大塚商会	22.1	20.6	94,966	
東京放送ホールディングス	—	43.4	109,541	
日本電信電話	15.7	9.5	49,742	
KDDI	64.5	31.9	96,912	
光通信	9.2	10.3	209,502	
卸売業 (10.6%)				
アルフレッサホールディングス	59.4	59.4	163,528	

日本連続増配成長株オープン

銘柄	第8期末		第10期末	
	株数	株数	株数	評価額
	千株	千株	千株	千円
アズワン	13.1	13.1	105,586	
シークス	19.8	54.2	118,806	
長瀬産業	18.3	67.7	126,666	
豊田通商	47.6	49.5	195,030	
イエローハット	—	18.9	63,693	
ミスミグループ本社	34.9	65.3	206,348	
小売業 (13.6%)				
サンエー	9.1	9.1	51,961	
MonotaRO	—	21.5	103,952	
J. フロント リテイリング	45.4	45.4	82,582	
スタートトゥデイ	44.3	82.9	363,102	
コスモス薬品	—	4	95,800	
ツルハホールディングス	3.7	—	—	
ドンキホーテホールディングス	44.1	36.9	214,389	
ユニ・ファミリーマートホールディングス	14.1	—	—	
しまむら	2.8	—	—	
イズミ	—	6.8	48,076	
ニトリホールディングス	14.8	15.6	305,448	
証券、商品先物取引業 (1.2%)				
FPG	—	69.3	105,751	
その他金融業 (6.3%)				
芙蓉総合リース	5.6	12.2	96,624	

銘柄	第8期末		第10期末	
	株数	株数	株数	評価額
	千株	千株	千株	千円
興銀リース	12.9	29	87,145	
東京センチュリー	8.4	14.3	93,951	
リコーリース	9.3	9.3	34,642	
オリックス	86.7	95.8	178,475	
三菱UFJリース	136.9	136.9	97,062	
不動産業 (1.5%)				
スターツコーポレーション	—	51.8	142,346	
サービス業 (10.0%)				
日本M&Aセンター	—	67.2	237,216	
カカコム	—	63	160,020	
エムスリー	33.4	33.4	155,143	
電通	—	28.9	152,014	
みらかホールディングス	20.2	—	—	
ユー・エス・エス	27.1	27.1	58,237	
リログループ	40.9	40.9	120,491	
イオンディライト	12.2	12.2	48,495	
合計	株数・金額	1,843	2,536	9,288,771
	銘柄数<比率>	66	68	<95.8%>

(注) 銘柄欄の()内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。
(注) 合計欄の< >内は、このファンドが組み入れているマザーファンドの純資産総額に対する評価額の比率。
(注) 評価額の単位未満は切捨て。

日本連続増配成長株マザーファンド

マザーファンドの運用報告書につきましては、ベビーファンドの運用報告書と作成対象期間が異なる場合には、データ・コメント等に不一致が生じることがありますのでご了承ください。

日本連続増配成長株マザーファンド 第2期 運用状況のご報告 決算日：2017年12月15日

「日本連続増配成長株マザーファンド」は、2017年12月15日に第2期の決算を行いましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。

当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	日本の連続増配銘柄（一定期間にわたり1株当たりの普通配当金が每期増加している企業の株式をいいます。）に投資を行います。
主要投資対象	日本の金融商品取引所上場株式を主要投資対象とします。
投資制限	株式への投資割合には制限を設けません。 外貨建資産への投資は行いません。

○設定以来の運用実績

決算期	基準価額		東証株価指数 (TOPIX) (参考指数)		株式 組入比率	株式 先物比率	純資産 総額
	期騰落	中率	期騰落	中率			
(設定日) 2015年12月28日	円	%	ポイント	%	%	%	百万円
	10,000	—	1,516.19	—	—	—	2,700
1期(2016年12月15日)	10,038	0.4	1,542.72	1.7	95.0	—	17,248
2期(2017年12月15日)	12,533	24.9	1,793.47	16.3	96.2	—	7,454

(注) 基準価額は1万円当たり。

(注) 設定日の基準価額および純資産総額は当初設定元本。

(注) 東証株価指数 (TOPIX) は当ファンドの参考指数であり、ベンチマークではありません。設定日の東証株価指数 (TOPIX) は設定日前営業日の終値です。

(注) 株式先物比率 = 買建比率 - 売建比率。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		東証株価指数 (TOPIX)		株 組 入 比 率	株 先 物 比 率
	円	騰 落 率	(参考指数)	騰 落 率		
(期 首) 2016年12月15日	10,038	—	ポイント 1,542.72	% —	% 95.0	% —
12月末	10,075	0.4	1,518.61	△ 1.6	95.0	—
2017年1月末	10,077	0.4	1,521.67	△ 1.4	96.0	—
2月末	10,137	1.0	1,535.32	△ 0.5	96.0	—
3月末	10,184	1.5	1,512.60	△ 2.0	95.9	—
4月末	10,391	3.5	1,531.80	△ 0.7	96.4	—
5月末	10,917	8.8	1,568.37	1.7	96.0	—
6月末	11,038	10.0	1,611.90	4.5	96.0	—
7月末	11,003	9.6	1,618.61	4.9	95.9	—
8月末	11,159	11.2	1,617.41	4.8	96.1	—
9月末	11,487	14.4	1,674.75	8.6	96.0	—
10月末	11,873	18.3	1,765.96	14.5	96.0	—
11月末	12,332	22.9	1,792.08	16.2	96.0	—
(期 末) 2017年12月15日	12,533	24.9	1,793.47	16.3	96.2	—

(注) 騰落率は期首比。

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2016年12月16日～2017年12月15日)



(注) 参考指数は、東証株価指数 (TOPIX) です。

(注) 参考指数は、期首 (2016年12月15日) の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドにおける主なプラス要因およびマイナス要因は以下の通りです。

(主なプラス要因)

- ・業種配分では、情報・通信業、卸売業、化学などが基準価額にプラスに寄与しました。
- ・個別銘柄では、スズキ、ロート製薬、伊藤忠テクノソリューションズなどが基準価額にプラスに寄与しました。

(主なマイナス要因)

- ・業種配分では、銀行業、不動産業が基準価額にマイナスに寄与しました。
- ・個別銘柄では、カカコム、三井住友トラスト・ホールディングス、富士通ゼネラルなどが基準価額にマイナスに寄与しました。

投資環境

(2016年12月16日～2017年12月15日)

国内株式市場は、期首から2017年3月にかけては、米トランプ政権による政策が期待された一方、米国の利上げペースが鈍化するとの観測から円高ドル安が進んだことなどで一進一退の展開となりました。4月半ばにかけては、米トランプ政権による政策実現性に対する不透明感や、北朝鮮情勢の悪化などを受けて下落しました。その後は、フランス大統領選挙の結果を受けて欧州の政治情勢への懸念が後退したことや、日本の企業業績に対する安心感が広がったことなどから反発しました。期末にかけては、衆議院選挙で与党が勝利しアベノミクスの再加速への期待が高まったことなどから上昇基調で推移しました。

当ファンドのポートフォリオ

(2016年12月16日～2017年12月15日)

当ファンドの運用につきましては、連続増配期間の長さ、時価総額、信用リスク、流動性等を考慮してユニバースを構築し、その中から、成長性や連続増配の持続可能性等を勘案しポートフォリオを構築しました。当期は世界的な景気拡大への期待を背景に外需関連業種が相対的に堅調に推移すると考え、竹内製作所やテルモなど海外での需要増加の恩恵を受けられる銘柄を新規に買い付けました。一方、連続増配が途切れた三井住友トラスト・ホールディングスやいすゞ自動車などを売却しました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2016年12月16日～2017年12月15日)

当ファンドは特定のベンチマークを設けておりませんが、基準価額の騰落率は、参考指数としている東証株価指数(TOPIX)の騰落率を8.6%上回りました。詳細につきましては前掲の「基準価額の主な変動要因」をご参照ください。

今後の運用方針

国内株式市場は、緩やかに上昇する展開を予想します。世界的な景気拡大や、日本企業の業績拡大への期待などが株価を押し上げる材料になると考えます。また、米国の大型減税への期待も相場の支援材料になると考えられます。ただ、北朝鮮情勢など不安材料も残っていることから、短期的に株価が調整する可能性もあると考えます。

当ファンドの運用につきましては、連続増配期間の長さ、時価総額、信用リスク、流動性等を考慮してユニバースを構築し、その中から、成長性や連続増配の持続可能性等を勘案しポートフォリオを構築します。個別銘柄につきましては、外需関連の銘柄の一部は株価上昇により割高感があると考えます。適宜、利益確定売りを進め、成長性に比べ投資指標に割安感があると考えられる銘柄の組入比率を高める方針です。また、決算などで配当金の据え置きや減額を発表した銘柄につきましては速やかに売却する方針です。

※文中の投資行動は、個別銘柄の売買等いかなる投資行動も推奨するものではありません。

○1万口当たりの費用明細

(2016年12月16日～2017年12月15日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	円 27 (27)	% 0.249 (0.249)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) そ の 他 費 用 (そ の 他)	0 (0)	0.000 (0.000)	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 その他は、金銭信託支払手数料
合 計	27	0.249	
期中の平均基準価額は、10,889円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2016年12月16日～2017年12月15日)

株式

国 内	上 場	買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
		千株	千円	千株	千円
		1,286 (18)	4,094,992 (-)	6,342	15,525,664

(注) 金額は受渡代金。

(注) 単位未満は切捨て。

(注) ()内は株式分割、予約権行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

○株式売買比率

(2016年12月16日～2017年12月15日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	19,620,657千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	10,970,138千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	1.78

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均です。

○利害関係人との取引状況等

(2016年12月16日～2017年12月15日)

利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
株式	4,094	1,439	35.1	15,525	7,104	45.8

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	29,023千円
うち利害関係人への支払額 (B)	12,831千円
(B) / (A)	44.2%

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは岡三証券です。

○組入資産の明細

(2017年12月15日現在)

国内株式

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
建設業 (3.5%)			
ショーボンドホールディングス	65	26.4	212,520
大東建託	5.1	—	—
積水ハウス	60	20	40,540
食品 (4.2%)			
アサヒグループホールディングス	71.7	38.8	221,548
日本たばこ産業	46.6	21.9	81,446
化学 (13.6%)			
東京応化工業	136.4	—	—
日油	126	12.5	36,737
花王	95.4	35	267,680
大日本塗料	—	13.6	25,445
日本ペイントホールディングス	54.4	10.3	37,389
シーズ・ホールディングス	63	20.6	114,124
ポーラ・オルビスホールディングス	—	15.5	63,860
小林製薬	33.7	29.1	213,885

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
タカラバイオ	—	50.7	78,230
ユニ・チャーム	70.5	45.8	136,048
医薬品 (4.7%)			
科研製薬	13.9	10.4	60,320
ロート製薬	180.7	90	278,100
キッセイ薬品工業	76.6	—	—
沢井製薬	13.2	—	—
ゴム製品 (0.6%)			
ブリヂストン	70.2	8.1	41,245
住友ゴム工業	139	—	—
ガラス・土石製品 (1.0%)			
ニチアス	164	51	71,400
金属製品 (1.7%)			
リンナイ	25	12.4	124,868
機械 (6.2%)			
牧野フライス製作所	209	—	—

日本連続増配成長株マザーファンド

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
オーエスジー	147.9	—	—
三井海洋開発	60.7	13.6	34,775
栗田工業	124.8	42.7	156,922
タダノ	331.1	—	—
福島工業	—	7.4	37,518
竹内製作所	—	30.5	71,309
グローリー	60.5	13.3	58,387
スター精密	116.6	44.6	83,089
電気機器 (4.4%)			
エレコム	—	14.4	37,540
富士通ゼネラル	—	34.5	84,042
シスメックス	21.6	22.8	196,992
輸送用機器 (4.0%)			
日産自動車	364	—	—
いすゞ自動車	335.2	—	—
スズキ	158.3	44.8	283,136
精密機器 (2.0%)			
テルモ	—	27.6	145,728
陸運業 (2.6%)			
西日本旅客鉄道	14.3	10.7	89,152
東海旅客鉄道	5.3	2.4	50,124
ハマキョウレックス	—	15	46,200
倉庫・運輸関連業 (0.5%)			
上組	249	14.3	36,465
情報・通信業 (15.0%)			
NECネットエスアイ	—	32.1	94,085
コーエーテクモホールディングス	97.5	36.4	85,358
GMOペイメントゲートウェイ	—	12.7	114,808
伊藤忠テクノソリューションズ	166.6	35.1	170,761
大塚商会	87.6	22.1	191,607
日本電信電話	20	15.7	84,010
KDDI	30.4	64.5	188,469
光通信	9.1	9.2	144,900
卸売業 (9.6%)			
アルフレッサ ホールディングス	118.4	59.4	154,380
アズワン	—	13.1	88,687
シークス	37.5	19.8	93,258
長瀬産業	—	18.3	36,709
豊田通商	131.2	47.6	203,252
トラスコ中山	9.8	—	—

銘柄	期首(前期末)	当 期 末		
	株 数	株 数	評 価 額	
	千株	千株	千円	
ミスミグループ本社	179.8	34.9	110,458	
小売業 (14.2%)				
サンエー	16	9.1	49,777	
エービーシー・マート	28.2	—	—	
セリア	12.8	—	—	
J. フロント リテイリング	154.6	45.4	90,255	
スタートトゥデイ	—	44.3	157,265	
クリエイト・レストランツ・ホールディングス	143.4	—	—	
ツルハホールディングス	10.5	3.7	60,754	
ドンキホーテホールディングス	55.6	44.1	252,252	
ユニー・ファミリーマートホールディングス	7.8	14.1	113,646	
しまむら	13.7	2.8	37,408	
ニトリホールディングス	17.7	14.8	255,744	
サンドラッグ	11.7	—	—	
銀行業 (—%)				
三井住友トラスト・ホールディングス	202.6	—	—	
静岡銀行	482	—	—	
その他金融業 (5.7%)				
芙蓉総合リース	33.3	5.6	41,440	
興銀リース	71.6	12.9	36,507	
東京センチュリー	47.4	8.4	43,260	
リコーリース	—	9.3	35,200	
オリックス	144.2	86.7	162,605	
三菱UFJリース	483.1	136.9	91,038	
不動産業 (—%)				
タカラレーベン	149	—	—	
サービス業 (6.5%)				
カカココム	45.7	—	—	
エムスリー	—	33.4	129,926	
電通	35.1	—	—	
みらかホールディングス	44.7	20.2	98,273	
ユー・エス・エス	36.4	27.1	65,256	
リログループ	9.1	40.9	120,000	
イオンディライト	28.6	12.2	51,606	
合 計	株 数・金 額	6,881	1,843	7,169,729
	銘柄数<比率>	70	66	<96.2%>

(注) 銘柄欄の()内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。

(注) 合計欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

○投資信託財産の構成

(2017年12月15日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
株式	千円 7,169,729	% 94.3
コール・ローン等、その他	434,690	5.7
投資信託財産総額	7,604,419	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2017年12月15日現在)

項 目	当 期 末
(A) 資産	円 7,604,419,278
コール・ローン等	79,686,813
株式(評価額)	7,169,729,750
未収入金	354,235,715
未収配当金	767,000
(B) 負債	149,667,234
未払金	149,666,166
未払利息	89
その他未払費用	979
(C) 純資産総額(A-B)	7,454,752,044
元本	5,947,996,316
次期繰越損益金	1,506,755,728
(D) 受益権総口数	5,947,996,316口
1万口当たり基準価額(C/D)	12,533円

(注) 計算期間末における1口当たりの純資産額は、1,2533円です。

(注) 当ファンドの期首元本額は17,183,299,201円、期中追加設定元本額は1,184,836,640円、期中一部解約元本額は12,420,139,525円です。

(注) 当親ファンドを投資対象とする投資信託の当期末元本額は、以下の通りです。

日本連続増配成長株オープン	5,946,115,234円
DC日本連続増配成長株オープン	1,881,082円

○損益の状況 (2016年12月16日～2017年12月15日)

項 目	当 期
(A) 配当等収益	円 196,112,473
受取配当金	196,281,228
受取利息	3,065
その他収益金	11,871
支払利息	△ 183,691
(B) 有価証券売買損益	2,208,478,333
売買益	2,739,166,825
売買損	△ 530,688,492
(C) その他費用等	△ 38,116
(D) 当期損益金(A+B+C)	2,404,552,690
(E) 前期繰越損益金	64,942,963
(F) 追加信託差損益金	28,031,360
(G) 解約差損益金	△ 990,771,285
(H) 計(D+E+F+G)	1,506,755,728
次期繰越損益金(H)	1,506,755,728

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定した価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 損益の状況の中で(G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

〈お知らせ〉

該当事項はございません。